

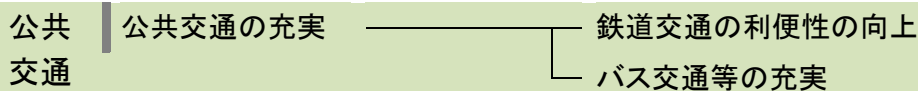
第6節 公共交通



現況と課題

- ◆ 鉄道やバス等の公共交通は、子どもや高齢者、障害者等にとって重要な移動手段であり、高齢化の進行にあわせその重要性が高まるとともに、観光誘客と併せた地域内の移動手段提供の上でも利便の向上が必要です。
- ◆ 世界文化遺産である富士山やその周辺への観光客の鉄道利用増加も見られることから、鉄道利便性のさらなる向上が求められています。
- ◆ 富士山駅を拠点に周辺各方面とを結ぶバス路線や鉄道があり、その利便性の確保、向上だけではなく、パークアンドライドの整備など公共交通の利用を促進することが求められます。
- ◆ 市内の生活バス路線としてのタウンズニーカーは、2001（平成13）年からの運行開始以降、新たな停留所の設置や一部増便、路線の見直し等、利便性向上を目指した改善を行っており、観光客の利用拡大も図る観点から、市内宿泊施設へのタウンズニーカー資料の配布も行っています。
- ◆ 持続可能な交通機関とするため、タウンズニーカーのさらなる利便性の向上と併せ、観光客等の利用も含めた利用者増加策を進めていくことが課題です。また、高齢者の増加など、公共交通の役割は今後さらに重要性を増すことが想定されるため、移動交通手段のあり方についても検討を進める必要があります。

施策の体系



●タウンズニーカー



### (1) 公共交通の充実

#### ① 鉄道交通の利便性の向上

富士急行線の運行回数、鉄道駅内のバリアフリー化等について、引き続き富士急行沿線活性化協議会を通じて働きかけを続けていきます。また、高速交通網を活用した広域的な交流を推進するため、リニア中央新幹線の山梨県に新設される駅とのアクセスやJR中央線の高速化の促進に向け、国・県・JR東日本等、関係機関に要請していきます。

#### ② バス交通等の充実

周辺各方面を結ぶバス路線について利便の確保・向上を図ると同時に、市内を運行するタウンスニーカーについては、より一層の利便性向上と利用者数の増加を目指し、持続性のある交通機関となるよう努めます。また、高齢化の進行に伴う公共交通への需要の高まりに対応するため、タウンスニーカー運行の改善を含め、新たな交通支援策についても調査・研究を進めていきます。

#### ● 富士急行線

